



はじめのグラフは、縦軸が角度、横軸が時間(フレーム)の踵がついてから踵がつくまでの1歩分のデータである。

Hip Flexion/Extension では通常歩行において角度の最小値はマイナスの値になっている。しかし、内股歩行ではマイナスの値にはなっていない。

T-test のグラフは、連続体の検定の結果を表しているものである。T 値 (直線) が 5%水準の値 (点線) より大きくなっているところで有意差がみられる。

グラフの結果より、Hip(腰)、Ankle(足首)の関節で有意差がみられる。Knee に関しては有意差が見られない。

有意差のみられる Hip と Knee では両方とも、遊脚期において有意差が見られ、立脚期では見られない。

## 7. 今後の展望

Adduction/Abduction と Longitudinal/Rotation の解析も行っていく。

内股歩行の被験者のデータを集め、通常の歩行のデータと比較を行う。

詳しい関節の動きなども調べて、力学的解析が行えるようにしていきたい。

## 8. 参考文献

- (1) 古澤, 原田, 原部 : 女子大学生における内股歩行の客観と主観による出現頻度の違い。
- (2) ゴードン・ロバートソンほか : 身体運動のバイオメカニクス研究法, 大修館, (2008)
- (3) アーカイブティックス株式会社 : Visual 3D  
<http://archivetips.com/visual3d/visual3d-japanesemanual/visual3d-workflow>

### ・ T-test

